

ほっかいどう

がいほつグラフ

北海道開発局広報誌

Vol.27

2001 季刊



ちやんとびとぎ...道の駅／見学施設のある駅

ピックアップ／PIARC2002国際冬期道路会議開催
新千歳空港ビル前道路駐車整備完成

開発事業のあゆみ／道東の拠点空港として
発展する釧路空港
～高土工への挑戦と霧の克服～

北国賦／日高山脈の山岳波上昇気流に魅せられて
～グライダーインストラクター 堀川 勲さん～

ついで最前線／用水路の多面的機能を活かす

事業紹介／みなとまちづくりと観光振興
特集 ● 冬を豊かに快適に

北海道開発グラフ

通巻第二十七号 二〇〇一年(平成十三年)十二月 監修 北海道開発局広報室

発行 財団法人北海道開発協会

〒001-0002 札幌市北区北11条西2丁目 セントラル札幌北ビル
☎011-700-9521 FAX 011-700-9535

開発の日々の
ひとコマ



動物型土製品

新千歳空港は埋蔵文化財の宝庫

新千歳空港建設に伴う発掘調査は昭和51年から20年の歳月をかけ、調査面積は、延べ26万平方メートル余にもなりました。発見された遺跡からは縄文時代の足形付土板、ヒスイの玉、漆塗りの櫛、盛土墳墓、動物形土製品、土偶、道跡、続縄文時代の集落とキハダの実、近世の船着き場とカジキが線彫りされた舟のカイなど、例を挙げきれないほどの豊富な遺構や遺物が発見されています。特に、動物形土製品は、国の重要文化財にも指定されています。

「さっぽろホワイトイルミネーション」

札幌の冬の風物詩として定着した「さっぽろホワイトイルミネーション」は、今年で21回目を迎えました。大通り公園と駅前通り、2つの会場を飾る電球は、なんと37万個。駅前通り会場では、JR札幌駅前からすすきのまで、全長1.2kmにわたり、中央分離帯の立木85本が電球で装飾されます。見慣れた国道も、美しい光のラインに変わります。

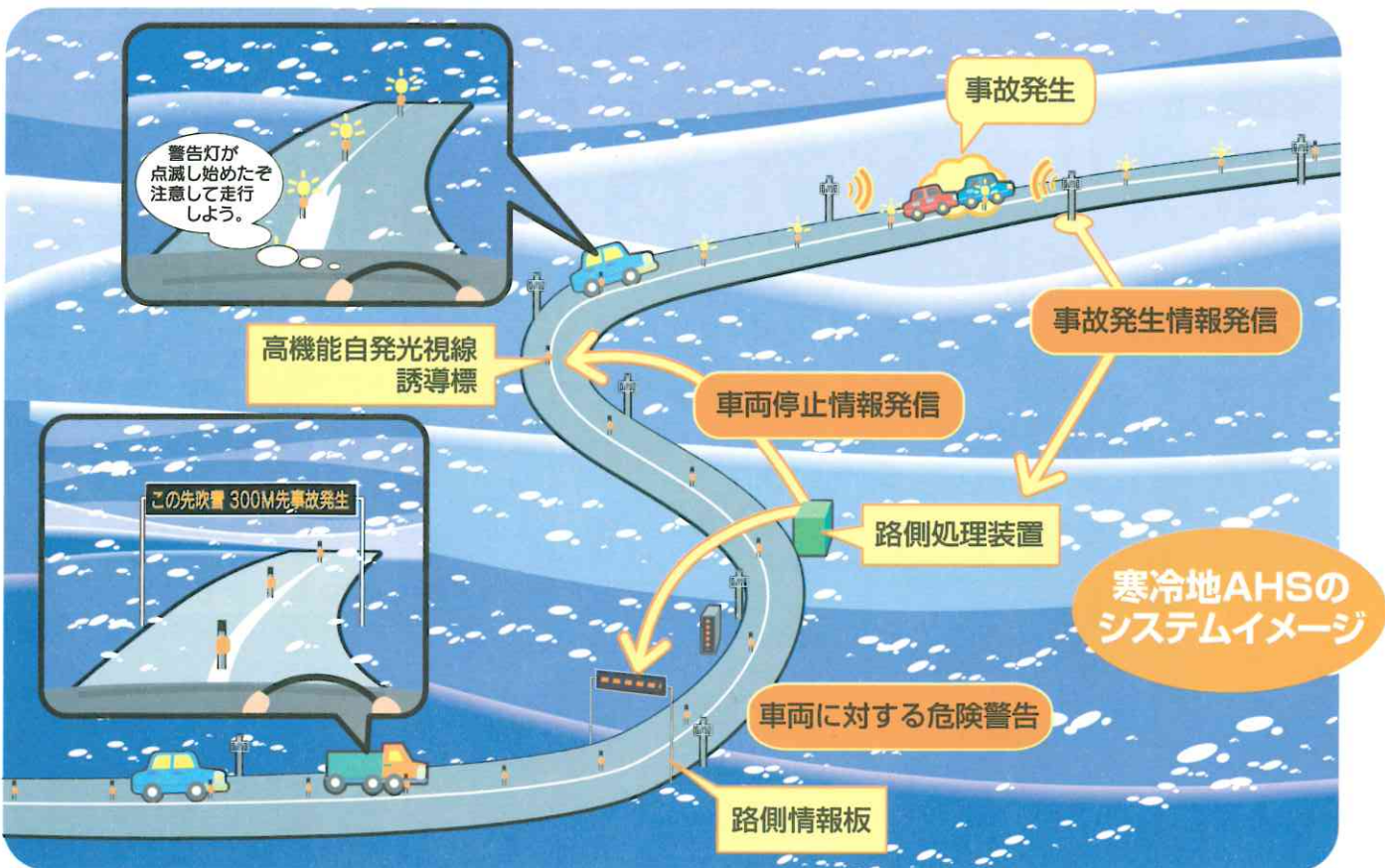
吹雪のときでも事故に巻き込まれないために —寒冷地AHSの研究—

北海道の冬期道路では、滑りやすい雪氷路面や吹雪による視程障害等のため、非常に厳しい運転環境にあります。また、視程障害時にひとたび事故が起こると、後続車からの発見が遅くなるため、多重事故に発展する事例も少なくありません。

そこで、北海道開発局土木研究所では、寒冷地AHS（走行支援システム）の開発を行っています。このシステムは、事故などで吹雪のなかで停止している車両をミリ波（電波）レーダを用いて検知して、後続車にリアルタイムで警告するものです。このレーダは普通のカメラと違って、吹雪で視界が悪い時でも、前方の障害物を検知することができます。現在、国土技術政策総合研究所と共同で、ミリ波レーダでの検知技術と、効果的なドライバーへの情報伝達方法について研究しています。実験はビデオなどを用いた室内実験のほか、実際の道路と近い状況での実験を石狩吹雪実験場で行っています。

このシステムが実際に導入されることにより、吹雪時の多重衝突事故の防止はもちろんのこと、吹雪による通行止めや減少や、冬道に対する安心感の向上など、多くの効果が期待できます。

現在行われている実験



特集 冬を豊かに快適に

冬の長い北海道。暮らしは、雪や寒さと切っても切れないものです。しかし長い冬だからこそ、冬を嫌っていると、生活が味気ないものになってしまいます。だから、冬を耐えるのではなく、「雪と親しみ、冬を楽しむ」。北海道にはそんな考え方があります。冬でも安全に、快適に暮らせるように。北海道開発局の取組をご紹介します。

1. 冬のドライブに欠かせない道路情報
2. 安全・快適な道づくり
3. 冬でも楽しく利用できるように

冬の安全走行をサポート —道路情報提供のしくみ—



冬期間の車の運転は、路面の凍結や吹雪で、大変気をつかうものです。冬道を安全に通行できるように、現在行われている道路情報の提供や、将来へ向けた走行支援システムの研究をご紹介します。

1. 冬のドライブに欠かせない道路情報

「好きなときに好きな場所から最新の道路情報」

北海道開発局では、道路情報板や路側通信による道路情報の提供に加え、「インターネット、電話による道路情報提供」を行っています。提供している情報は、国道230号中山峠、国道274号日勝峠、国道39号石北峠、日高自動車道沼ノ端東ICです。

北海道開発局ホームページ
<http://www.hkd.mlit.go.jp/>
「Topics 道路交通情報」をクリック。

電話
011-708-8675
音声案内に従って、リクエスト希望の道路情報番号を押します。

雪や氷で滑りやすい冬の道路。そのうえ峠道では気象も変わりやすいものです。だから路面や気象の情報は、冬場のドライブには欠かせません。この厳しい気象や、路面状態の情報を収集し、迅速・的確にドライバーへ提供し、交通の円滑化と安全の確保を図るのが、道路交通情報提供システムです。

これらの情報を把握することにより、安全・快適なドライブをサポートすることができるようでなく、効率的な除雪作業や凍結路面対策を行うことができます。

温泉を使って歩きやすい道路に

—小清水市街歩道ヒーティング工事—

網走管内の小清水町では、3箇所
の源泉から温泉が湧いています。こ
の温泉は町営温泉施設で利用され、
町民の大きな財産となっています。
今回、町の街並み整備事業と連携し
て温泉を利用した歩道のロードヒー
ティングを行うこととなりました。

このような取組は、温泉地として
知られる定山溪や羅臼町でも行われ
ていますが、小清水町の工事では、
湯を通す管に新しい材料を使用しま
した。従来の温泉を利用したロードヒ
ーティングでは、ステンレスの管を
使っているのですが、一年間かけて、
材料試験や実際の施工実験を行い、
ポリブテン樹脂というものを使うこ
とになりました。これは、温泉特有
の硫黄などの含有物がつきにくいた
め、清掃などの維持管理費が少なく
て済むようになります。

工事を行った国道391号は、小
清水町の中心商店街を通るため地域
住民の方の利用も多く、「真冬でも
安心して歩ける」と好評です。また、
車道のわきに大きな雪山ができるこ
とがなくなり、運手者の視界がよく
なることから、交通事故防止にも一
役買っています。平成13年度内には、
全体の6分の5までが完成します。



工事の様子です。このヒートパイ
プに温泉の熱が伝わり、雪を溶か
します。ヒートパイプは、区間全
体で13,000本が埋め込まれていま
す。

小清水町で行われた「21世紀に
残したい小清水の姿フォトコンテ
スト」の一般部最優秀賞の作品
です。
『ヒーティングロードで通学OK』
(撮影：小清水町 榎原 功さん)
歩きやすくなった歩道で楽しそう
に通学する子どもたちの様子です。



小清水町商工会長
奥村 誠さん

この国道は、商店街であると
同時に、小学校の通学路になっ
ていますので、毎朝子供たちが
通ります。冬になると、子供の
通学時間前に雪かきをして歩き
やすくしていたのですが、この
ロードヒーティングができてか
らは、早朝に雪かきをしなくて
も安心して子供を歩かせること
ができて、とても助かっています。
また、小清水町は高齢者の
割合が比較的高いのですが、や
はり高齢者からも好評をいただ
いています。

車を運転するときでも、以前
は歩道と車道に大きな雪山
ができて、交差点を曲がるとき
に、危ない、と思ったことも何
度もあるのですが、これができ
てからは、そういったことは少
なくなりました。

昨年完成した部分は大変好評
だったため、町民のみならず
全体の完成を心待ちにしていま
す。そのため工事に対しても非
常に協力的で、工事現場の方に
「がんばって」と声をかけ
たりもしているようです。今年
はさらに6分の4ができるとい
うことで、雪が降るのが待ち遠
しいね、などと言う声も聞こ
えるくらいです。

水の力で雪を流す

—流雪溝—

冬になると、歩くときには地面がつるつる、車に乗ると、車線が減って大渋滞。
冬の外出は面倒だ、と思ったことはありませんか。北海道開発局での雪対策です。

冬は、車道の脇に雪山ができて道
幅が狭くなり、車線が減少したり、
走行速度が遅くなったりと、交通渋
滞が起きやすくなります。また、雪
山が運転者の視界の妨げになって、
歩行者が出てくるのが見えな
いなど、交通事故が起きやすい状態にな
ります。

これらの問題を解決するため、北
海道開発局では、流雪溝の整備を進
めています。流雪溝とは、河川の水
や下水処理水などを利用して、道路
の雪を流水により運搬するシステ
ムです。除雪等により道路の両側に寄
せられた雪を、地域住民が協力して
投雪口に入れ、路上の雪山を解消し
ます。

国道の流雪溝は、札幌市・旭川
市・砂川市など19箇所が使われてお
り、さらに余市町・秩父別町で整備
がすすめられているところです。

2. 安全・快適な道づくり



旭川 流雪溝 の例

流雪溝ができるまでは・・・

夏の間は片側2車線の道路ですが、雪山によって、片側1車線になってしまっています。



流雪溝完成後

道路脇の雪山がなくなり、車
がスムーズに流れています。

投雪口



冬だからこそ外で遊ぼう! —滝野スノーワールド—

国営滝野すずらん丘陵公園では、12月23日(日)から、「滝野スノーワールド」を開園しました。

いつでも誰にでも楽しめる冬のレジャースポットとして大人気の滝野公園が、今年はさらにパワーアップします。ソリゲレンデにゴムスレー(チューブすべり)で豪快に滑走するS字スペシャルコースがお目見え。ゴムスレーを運ぶ無料ロープ塔が1基増設されるので、運ぶのもらくらくです。滝野公園定番の歩くスキーには、初心者用1kmコースが登場、1〜15kmまでの6コースとなり、初心者から上級者まで、冬の滝野を満喫できます。レンタルスキーもありますので、手ぶらでもお越し頂けます。

「滝野スノーワールド」期間中は、滝野公園を代表する「第18回滝野公園歩くスキー大会」をはじめ、「新春雪遊びの祭典」や「スノーフェスティバル」など、子ども達に大人気のイベントも開催します。

夏とは違った滝野公園に、ご家族、お友達を誘ってぜひご来園ください!



こどもの谷「ソリゲレンデ」



スノーラフティング



「スノーフェスティバル」

滝野スノーワールド

- 開園期間 平成13年12月23日(祝)~平成14年3月31日(日)
- 開園時間 9:00~16:00
- 入園料 無料(駐車料金は別途必要です)
- お問い合わせ先 滝野管理センター
☎011-594-2222
- ホームページアドレス
<http://www.takinopark.com/>



**第18回滝野公園歩くスキー大会
参加者募集中!**
期日 平成14年1月13日(日)
上記までお問い合わせください。

人にやさしい冬のみなと

みなとは、物流・産業の拠点として、大きな役割を果たしていますが、最近では人々の生活に潤いを与える空間としての役割も重要になってきています。特に北海道は、その厳しい寒さから、冬期間の観光客誘致が課題になっています。このため、防波堤上のプロムナード的な活用や、流水観光船ターミナル整備など、寒さの厳しい冬季においても親しみのある港湾空間を形成することとしています。

また、漁港では、漁業に従事する人々を降雪・強風・波浪などから守り、冬期間も陸揚げや荷さばき、網はずしなどの作業を安全に、快適に行えるような工夫をしています。

人々にぎわう親水防波堤「ぼぼ260」



網走港

オホーツク海に面し、流水観光が人気の網走港。毎年冬には多くの観光客が訪れています。平成7年に完成した通称「ぼぼ260」と呼ばれる南防波堤は、その上を歩いて流水観光ができるような親水機能を備えています。また現在市街地に近い川筋地区において、流水観光砕氷船「おーら」の旅客船ターミナル整備を行っているところです。

紋別港

網走港と同じくオホーツク海に面した紋別港。ここも流水砕氷船の「ガリンコ号Ⅱ」を活用した流水観光が盛んです。そのほかにも流水を見ながら散策できる親水防波堤「クリオネプロムナード」のほか、その先端部には、流水を海中から観察できる氷海展望塔「オホーツクタワー」が整備され、観光客でにぎわっています。



オホーツクタワー、クリオネプロムナードと「ガリンコ号Ⅱ」

寒くて長い冬だけど、家に閉じこもらずに、でかけてみませんか。冬でも楽しい、冬だからこそ楽しい、北海道にはそんな魅力が満載です。「冬」を意識して作られた港と公園をご紹介します。

3. 冬でも楽しく利用できるように

白尻漁港(南茅部町) カモドーム

護岸がドーム式になっており、漁港で作業する方々を厳しい波や風雪から守ります。スケトウダラは冬が旬なので、網外しなどの際、快適に作業ができると好評です。このドームは、屋根が展望デッキになっており、一般の方も海や漁港に親しめる空間となっています。夜にはライトアップされ、港に美しく浮かび上がります。



白尻漁港

道の駅

道の駅で海鳥や宇宙について学ぼう!

今回は見学施設のある道の駅がテーマです。
なかでも、その土地に縁のある話題のスポットを紹介し
旅の途中で立ち寄るのはもちろん、これらの駅をめざして出掛けるのも楽しそうですね。

スペース・アップルよいち

[国道229号 余市町]

毛利さんに続け!「スペース童夢」で大宇宙に接近遭遇



スペースシャトルや宇宙開発の歴史、宇宙実験などを紹介する毛利記念ホール

リンゴの里で知られる余市町は、日本人初のNASA宇宙飛行士、毛利衛さんのふるさととしても有名です。その毛利さんの功績と宇宙開発の今を伝える余市宇宙記念館「スペース童夢」の一部が、道の駅として解放されています。ワーブドックといわれる通路をぬけると、そこはもう別世界。宇宙ステーションをイメージした館内は、映像や音響、最新のパーソナル技術による様々なアトラクションを通して、宇宙の神秘や宇宙開発の歴史、最新情報が学べる体験型学習施設です。なかでも、宇宙空間に浮かぶ世界最大の「ハッブル宇宙望遠鏡」を3/4で再現したハッブルシアターの存在感は必見。望遠鏡の内部ではNASAから送られた映像が楽しめます。さらに平成14年4月20日からは、直径5mのドーム型デジタルプラネタリウムを設置(道内初)する予定で、「迫力のCGドーム映像で宇宙の神秘をリアルに感じてもらえるはず」とスタッフの打矢さん。宇宙と地球を体感できるこんな最新情報発信基地で、家族や友達どうし宇宙への夢を語り合うのも楽しいでしょうね。



ハッブル宇宙望遠鏡の3/4模型の中では最大な宇宙の映像を紹介



毛利さんは2度目の宇宙飛行後の2000年春に「スペース童夢」を訪れ、「ふるさと宇宙教室」を開催

☎0135-21-2200

※スペース童夢 入館料/大人1200円 小人500円(冬期間は一部のアトラクション休止のため、大人500円 小人300円) 休館日/冬期間の月曜日 祝日の翌日 年末年始 <http://www.spacedome.co.jp/>



重力の違いによる体重測定やロボットアームの操作などを体験できる宇宙実験モジュール。天井から下がっているのは国際宇宙ステーションの模型

「道の駅スタンプラリー2001」は、大盛況のうちに終了しました。全応募者数は51,289名!! 完全制覇賞は2002年3月31日(日)まで今年も全国各地からラリー参加者が集まり、全応募者数は51,289名、全駅完全制覇賞への応募は9,582名と過去最高となりました。また、週日厳正なる抽選が行われ、3,141名の方が商品を獲得されました。商品の抽選は終わりましたが、完全制覇賞へのチャレンジは、2002年3月31日まで。70の「道の駅」スタンプを集めた人には、もちろん完全制覇認定証及びステッカーをプレゼント。さらに詳しい情報は、北海道開発局のホームページでもご覧いただけます。

<http://www.hkd.mlit.go.jp>

ほっと はぼろ

[国道232号 羽幌町]

日本で唯一の海鳥の研究拠点。驚きと発見がいっぱい!

真っ白な豪華客船をイメージした「サンセットプラザ はぼろ」が、道の駅のメイン施設です。館内には、天然温泉、露天風呂、屋外プールなどさまざまな施設があり、また、7階の展望ラウンジから天売島、焼尻島などが一望できて、ここからの眺めは抜群。この裏手には、北方系のバラが咲き薫る「はぼろバラ園」があり、最盛期の7月から9月には多くの方が訪れます。さらに隣接して建つ「北海道海鳥センター」にもぜひ立ち寄ってみてください。ここでは、海鳥の保護や研究を進める日本で初めての研究拠点。館内に一歩足を踏み入れると、たくさんの海鳥が鳴き交わす声が聞こえます。目を閉じると、まるで海鳥の島・天売島のコロニーに佇んでいるような錯覚に…。これは、海鳥繁殖地の断崖絶壁を模したジオラマから聞こ



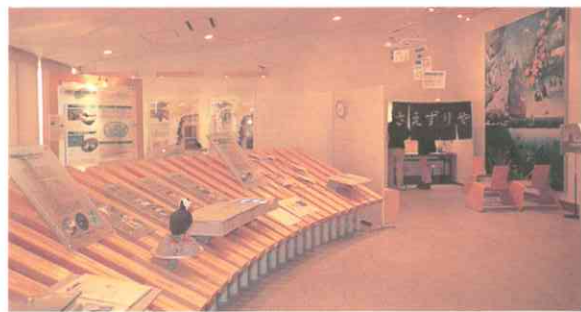
日本海を望む7階の展望ラウンジでは昼、夜ともにホテルメイドの料理が楽しめる好評



天売島に繁殖する8種類の海鳥を光と音の演出によって紹介するジオラマ



巣穴を掘るウトウの生活を疑似体験する企画展示

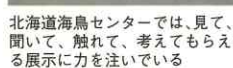


海鳥に関するさまざまな情報を発信。海鳥の実物大バードカービング(野鳥彫刻)にはぜひ触れてみて!

えてきた鳴き声でした。絶滅の危機に置かれているオロロン鳥(ウミガラス)の保護活動や面白い生態をもつウトウのことなど、発見や学びがいっぱいの展示内容です。8種類約数十万羽の海鳥と約500人の島民が暮らす周囲12kmの天売島。この、世界でも有数の海鳥繁殖地である貴重な島からのメッセージを、ここで受け取ってみませんか。

☎01646-2-4455

※北海道海鳥センター ☎01646-9-2080 入館料/無料 休館日/月曜日 祝日の翌日 年末年始 <http://www.seabird.go.jp>



北海道海鳥センターでは、見て、聞いて、触れて、考えてもらえる展示に力を注いでいる



用水路の多面的機能を活かす

旭川農業事務所 第2工事課
第2建設係長 内田 典邦



現在、用水路の改修・建設を行っています。既設水路改修の特徴は、改修の際、現在使用している古いものをできるだけ取り払わず、その上に建設するようにしている点です。こうすることによって、工期とコストが縮減されます。用水路は、一般住民の方が持っている土地を通ることもあるため、住民のみならず、事業を理解していただくことが不可欠です。事業の説明会などを開催するのですが、この地区は、3市町にまたがっているため、調整が難しいところがあります。



古い用水路を基礎としてその上に新しい用水路を置く形で工事をします。そうすると、古い用水路を撤去することがなく、経済的です。



「地域用水」として美しい景観作りにも使われる用水路

ろです。しかし完成後、地域の方から用水路ができてよかった、などという声を聞くと、この仕事をやっていてよかったという気持ちになります。

用水路整備の目的は、農産物の生産性向上及び品質向上ですが、これからは、住民のみならずにもっと気軽に利用してもらえよう、住民のみならずの意見を取り入れながら整備をすすめていきます。水のある風景は、心にやすらぎをもたらしてくれるものです。用水路の周りに花を植えたり、家庭菜園や防火用水等に水を使ったりと、多面的に活用していただいで、地域の方に愛されるものになって欲しいと思います。用水路が、農業の役に立つだけでなく、地域の憩いの空間になるとてもうれしいですね。



最・前・線

開発局と地域を結び
主役はまさに“ひと”
地域の人々と一緒に考え、行動する
その最前線に立つ姿を紹介します

国営かんがい排水事業 忠別地区
東方に北海道の屋根大雪山連峰を望み、旭川市を中心とする経済圏に位置しています。旭川市・東神楽町・東川町にまたがる水田地帯と、畑作地帯とがあり、忠別川の清流が地区の中心部を貫流しています。



自然と一体になって

国営滝野すずらん丘陵公園は12月23日(祝)、
滝野スノーワールドとしてオープンしました。
緩やかなゲレンデでスキーができるファミリーゲレンデ、
スノーラフティングができるソリゲレンデなど、
思うぞんぶん雪と遊べるほか、
歩くスキー大会や、犬ぞり大会など、
数々の楽しいイベントが予定されています。
冬の遊びが盛りだくさんの滝野公園に出かけてみませんか。

ザ・シンポジウムみなとin網走の開催

北海道開発局をはじめとする実行委員会は、地域の発展の核となる港湾について、様々な立場からその方向性を議論し、港湾の重要性を広く一般にPRすることを目的として、「ザ・シンポジウムみなと」を毎年道内各地で開催しています。

第9回目となる今年は、みなとまちと観光振興というテーマで、10月27日(土)、網走市のオホーツク・文化交流センターで開催しました。

シンポジウムは、料理研究家の藤野真紀子氏による特別講演と、「網走一魅力あるみなとまちへ」～観光振興の視点から～をテーマとしたパネルディスカッションの2部で構成されました。パネルディスカッションでは、網走市の観光に対する課題のほか、中心市街地と川筋地区ターミナルの連携についてなど、港がまちづくりに果たす役割などについて、各パネラーの方から貴重なご意見をいただきました。



川筋地区将来イメージ図

現在の川筋地区



流氷観光砕氷船「おーろら」

みなとまちづくりと観光振興

～まちづくりと一体となった網走港旅客船ターミナル整備～



みなとは、海辺の雰囲気の良いから市民のうるおいの場として利用されていますが、市街地に近く、交通の便も良いことも多いため、まちづくりと連携を図ることで地域の活性化を進めようとする動きが見られるようになってきました。その事例として、オホーツク海の流氷観光の拠点ともなっている網走港における取り組みをご紹介します。

〈網走流氷観光〉

網走港のある網走市は、農業、水産業とともに観光が基幹産業となっており、年間約200万人もの観光客が訪れます。網走観光の目玉としては、網走刑務所が有名ですが、最近では流氷観光砕氷船「おーろら」を利用した流氷観光も注目されています。この「おーろら」は網走港を基地港として、流氷で覆いつくされた港の周辺海域を周遊するもので、平成12年度には利用客が約17万人に達するなど、通常閑散期といわれる冬季の観光客増加に貢献しています。

〈中心市街地の活性化と旅客船ターミナル〉

網走市の中心市街地は、近年の住宅地の郊外への広がり、大型店舗等の郊外進出などの影響で、空洞化が進むなどの問題が発生しており、これに対応するため、網走市や地元商店街などを中心に活性化へ向けた取り組みがなされています。一方で、その中心市街地に近い網走港の川筋地区の係留施設は、老朽化がすすんでいることから、施設の改良が必要とされています。そこでこの施設改良を機に、「おーろら」の発着場となる旅客船ターミナルを中心市街地に近い川筋地区に移転し、中心市街地活性化とも連携したみなとまちづくりに向け、再開発を進めることとなりました。その中で、現在北海道開発局では、将来「おーろら」などが係留される水際部分の改良・整備を進めているところです。

〈旅客船のターミナルの活用〉

この旅客船ターミナルについては、冬の「おーろら」の発着所のほか、秋サケ等の網おこし体験観光と生鮮魚介類の直接販売を合わせた漁業体験見学船ターミナルとしての利用や、観光情報、地場産業情報の提供など、観光拠点としての役割を持たせることが検討されています。また、現在網走川の上流部に係留されている遊漁船やプレジャーボートをこの地区に移転させるとともに、河川整備やまちづくりとも一体となった親水空間としても利用される予定です。

北国賦

日高山脈の山岳波上昇気流に魅せられて

グライダーインストラクター
堀川 勲



十勝平野の上にかかるレンズ雲

北海道の冬、十二月〜四月を中心に北西の季節風が吹く頃になると、この風が日高山脈を越えて大きな風の波となって、十勝平野の上空を流れていく現象が起きる。この波の前面では大きな上昇気流となり、風下側では逆に大きな下降気流となる。これをスタンディングウェーブという。上昇気流の上昇率は毎秒10m以上になることもあり、そしてこの上昇高度は優に一万mを越えることもある。

91年の冬の終わり頃のことだった。私は、自分が教官を務める「とよころフライングクラブ」と「たきかわスカイパーク」との共同で、このウェーブの調査飛行を行う計画を立てていた。そのため事前に、小型補助エンジン内蔵の二人乗りヤナス型滑空機を滝川から豊頃へ空輸してきていたのだ。

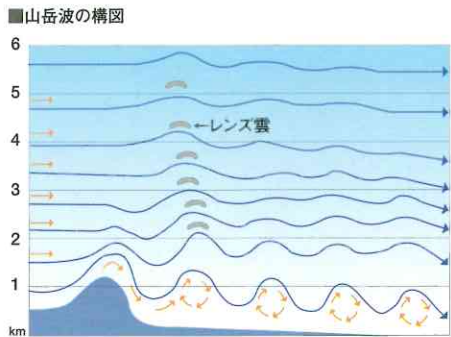
そして毎日のように気象状況を調べていたある日、風はあまり強くはなかったが、条件としては多少の可能性があるとみて、用意してあったヤナス機で、滝川の池田氏と私がとよころ飛行場を離陸上昇に移った時、前方に横に細く長い雲（レンズ雲）が見えた。前席の池田氏に伝え、その雲の下へ行ってみると、思ったとおり毎秒二〜三mの上昇気流があった。早速エンジンを停止格納。これは明らかに日高山脈を越えて発生した何番目かの上昇気流に違いないと記憶しておくことにした。上昇率が弱くなったところで再び山の方に向かって増速して行くと、同じような上昇帯に遭う。こうして何回か繰返して新得の上空に達した時、出発直後の最初の上昇気流の波から第六波の上昇気流であることがわかった。最も山に近い第一波の上昇率は、風速が強い場合は毎秒10mを越すこともある。この時の場合、高度は約三千mに達していたと思われた。上空から見る地上の景色は、まるで大きな箱庭を見ているようだ。真下を見ると、狩振岳、沙流岳、ペケ



91年4月 滝川から豊頃へヤナス機を空輸してきたところ。左から4番目が私。その左が池田氏。



2001年秋 とよころ飛行場にて



を背に豊頃に向けて帰途についた。

翌日、前日の経験を生かして、再び池田氏とトライしてみることにした。今度は酸素も万全で、安心して上昇することができた。前日と同じように途中の上昇地帯を通過して新得の上空に達したが、この日の調査は北へ南へと余裕をもって行えた。安定した上昇気流のあることを確かめ帰路につくが、今回は高さに余裕があるので、帯広空港の北側を通り忠類を廻り浦幌町を廻って豊頃へ大きく旋回するコースをとり、余裕を持って帰着したのだった。

その後の95年冬、とよころ飛行場の加藤教官と会員の岡本君がこの山岳波上昇気流をつかみ、グライダーの高度を競う種目で、素晴らしい記録を手にすることができた。

この魅力に魅せられた私は、八十四歳になった今も、気流を求め北の空を飛んでいる。



1953年設計の複座式グライダー H22B-3 (Hは堀川の頭文字) の前



1926年に私が設計した巴3の3型グライダー

Profile 堀川 勲 Isao Horikawa

1917年東京生まれ。東京高等専門学校（現芝浦工大）グライダー部で活躍。卒業後、満州航空勤務を経て、仲間と山口県にグライダー製造会社を設立。グライダー設計、生産、試験飛行に並行して滑空指導に携わり、戦後日本のグライダー界の基礎を創る。教官が同乗できる初の複座機の設計者としても高名。90年にスカイスポーツ国際賞であるポール・ティサンディエ賞（元国際航空連盟事務総長の功績を記念）、96年に獲得高度五千mを達成したことで、自由距離五百km以上、目的地飛行三百km以上と合わせ、国際航空連盟の最高権威である3つのダイヤモンド記章を全て受賞。88年から十勝管内豊頃町在住。後輩の指導にあたり共に自らの記録への挑戦が続く。

道東の拠点空港として 発展する釧路空港

～高盛土工への挑戦と霧の克服～



昭和59年滑走路延長事業（1,800m→2,100m）北側盛土工事盛土の高さは50mにもなっています

時代とともに発展

釧路空港の歴史は、釧路市と白糠町にまたがる丘陵地に、旧運輸省が設置及び管理する第二種空港として昭和32年に建設を始め、昭和36年にプロペラ機が就航する滑走路長1,200mの規模で供用を開始したのが始まりです。

昭和48年には、小型ジェット機を就航可能とするため滑走路長を1,800mに延長し、釧路〜東京間が空路で結ばれることになりました。こうして釧路空港は、道東地域における航空輸送の拠点として重要な役割を果たすこととなりました。

その後も、観光やビジネスなど飛行機を利用する機会が増え、大量輸送時代に対応するための整備が必要となり、昭和59年に滑走路を2,100mに延長、さらに平成元年には2,300m、平成12年には2,500mに延長と、航空機の大形化に合わせて段階的に空港整備を実施してきました。

高盛土工への挑戦と霧対策

高台に建設された釧路空港では、滑走路を延長するための平坦な用地が必要なため、盛土高で50m以上の大規模な高盛土工事を実施しました。空港ではこのような大規模な高盛土工事の事例は少なく、また、地盤が軟弱であること、釧路地方が地震の多発地帯であることなど厳しい条件における工事となりました。そこで、調査・設計から施工まで詳細に検討を行い、厳しい工法管理と品質管理のもと工事を実施するとともに、工事中から完成後にわたり盛土の挙動

観測も実施しています。

平成3年からは釧路地方特有の濃霧による欠航を解消するため、電波で飛行機を空港に誘導する、計器着陸システムの性能向上整備が行われました。平成7年10月からは、このシステムで国内でも最高レベルのカテゴリーⅢaの運用を開始しています。この結果、濃霧による欠航は大幅に減り、就航状況向上などの効果を上げています。また、平成7年からは老朽化し手狭となった旅客ターミナルビルや駐機場等、諸施設の拡張整備が実施され、平成8年7月には新ターミナルビルが供用を開始しました。さらに空港周辺に広場や屋根付歩道を設置するなど、快適で親しみのある施設整備を進めています。

道東の拠点空港として

昭和36年の開港当初は年間3万人だった空港利用者も、現在では国内8都市を結ぶ空のネットワークが形成され、年間利用者が90万人を数えるまでになりました。

開港から40周年を迎えた平成13年10月には、空港利用者がのべ2千万人に達しました。2千万人達成は、道内では新千歳、函館空港に次ぐ記録であり、名実ともに北海道東部の拠点空港として発展を続けているといえます。

釧路空港は、釧路湿原をはじめとする道東観光の拠点として、また、生活を支える交通ネットワークの拠点として、今後とも重要な使命を担っていくことが期待されています。



昭和36年頃富士航空（現日本エアシステムの前身のひとつ）の航空機



昭和36年北日本航空（現日本エアシステムの前身のひとつ）による釧路〜札幌線の開設により、釧路空港の歴史ははじまりました。



昭和39年頃の釧路空港



昭和36年 滑走路1,200m×30mで供用開始した釧路空港



現在の釧路空港 滑走路は2,500m×45m

「わが村は美しくー北海道」運動 第1回コンクール募集中!

「わが村は美しくー北海道」運動が、北海道の農村地域を支える農林水産業をもっと豊かにするためにスタートしました。取組の中心となるのは、そこに住んでいる皆様です。

それぞれの地域にとって大事なもの、地域の資源を発見してください。北海道の豊かな未来作り、それは一つ一つの地域の取組から始まります。そして、それぞれの地域の個性が響き合い、競い合うことによって、北海道全体が生き生きすることでしょう。

コンクールの対象は、農山漁村における、集落共同体の活性化や個性的で魅力ある地域作りに寄与しようとしている活動です。次の3つの部門別に、地域作りグループの取組から、優れた取組を表彰し、運動の普及を図ります。

景観部門：地域作りの取組としての景観形成活動

地域特産物部門：地域で生産される農林水産物を利用した、「特産物」といわれている主として加工品の生産活動

人の交流部門：地域外部の人々との交流活動

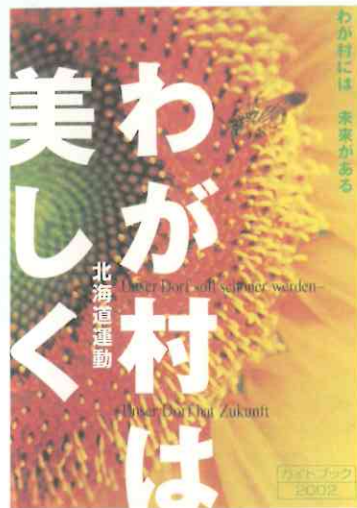
皆様の地域がこのコンクールに参加することにより、他の地域から刺激を受けながら、より高い目標を目指していくことを期待しています。

ガイドブック及び応募用紙は北海道開発局、各開発建設部で配布していますので、ぜひご覧ください。締め切りは、平成14年3月31日です。

問い合わせは、各開発建設部土地改良情報対策官または下記まで
〒060-8511

札幌市北区北8条西2丁目札幌第一合同庁舎

北海道開発局農業水産部農業振興課企画係 電話 (011) 709-2311内線5586



「参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう」

えぞためき

21世紀最初の年も、早終わろうとしている。

雪も降り、寒さも厳しくなってきたこの頃だが、冬の楽しみといえば、スキー・スケート等のウィンタースポーツであろう。

スポーツマン諸君、健康に留意しつつ、大いに楽しもう。ただし、路面状態を把握して、運転には、細心の注意をお願いしたいものである。

私事ではあるが、広報の仕事を担当し、初めて取材をしてみて、自分の知らないことがいかに沢山あるか思い知らされ、さらなる勉強の必要性を強く感じてきた。

今年は、米国同時多発テロ等例年にも増して、暗いニュースが多かったが、冬の先には、暖かな春が必ずあるように、来る年は、明るい年となってもらいたいものである。(か)

全20ページという読みやすい量がいい点ですね。普段は難しくそう敬遠してしまいがちな事が分かりやすく書かれていて、良かっただけです。特集ページで写真入りで紹介されていた土のう造成機などは、新発見でした。こんな感じの専門的な分野のことをなるべく図・写真入りで私たちにわかりやすく載せて、教えていただきたいです。(京都府 M.Yさん)

今まで開発局は、道路事業だけを行っていると思っていました。グラフを読んでそれ以外にも幅広く事業を行っている事を知りました。特に、26号の記事にもあった高規格道路は、完成を心待ちにしています。完成の折りは是非利用したいと思っています。(札幌市 H.Oさん)

ひろば

26号アンケートはがきより...

「かいはつグラフ」が

インターネットでもご覧になれます。

北海道開発局のホームページでは、「ほっかいどうかいはつグラフ」の誌面の一部を掲載しております。掲載している記事は、特集、しごと最前線、事業紹介(17号以降)です。バックナンバーも見ることができますので、ぜひアクセスしてみてください。



アドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp>

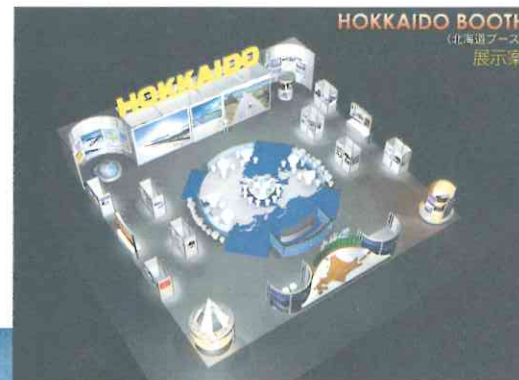
ピックアップ

「PIARC2002国際冬期道路会議」が札幌ドームで開催されます。

2002年1月28日(月)～31日(木)の間、世界道路協会(PIARC)が主催する、積雪期の道路の維持管理及び交通安全をテーマとした世界会議が、ヨーロッパ以外の地として初めて札幌で開催されます。

会議にあわせて開催される展示会では、雪国の暮らしについて考える「ふゆトピア・フェア」も併せて開催され、世界各国の204企業・団体が雪、氷に関する技術のほか、自動車、環境、情報通信など最先端の技術を表示します。

展示会は札幌ドームで行われます。入場は無料で一般に開放されますので、ぜひみなさんで会場を見学してみてください。(一般公開は1月29日から)



北海道ブース展示案



開発カレンダー 2002年 1月～3月

- 1月28日 「ふゆトピア・シンポジウム」(札幌市民会館)
- 1月28日～31日 「2002PIARC国際冬期道路会議」・「2002ふゆトピア・フェア」(札幌市札幌ドーム)
- 2月9日 北海道漁港漁村フォーラム in OTARU 2002 21世紀の食と文化を支えるために(小樽市小樽グランドホテル)
- 2月19日～21日 第45回(平成13年度)北海道開発局技術研究発表会(主催：北海道開発局 協力：独立行政法人北海道開発土木研究所)(札幌市教育文化会館)
- 3月 一般国道450号 旭川紋別自動車道上越白滝道路 暫定2車線供用開始(延長約19km)(上川郡上川町字上越～紋別郡白滝村字白滝)

新千歳空港ターミナルビル前の道路駐車場整備完成

新千歳空港ターミナルビル周辺道路の混雑緩和と、駐車場とターミナルビル間のアクセス向上を目的として平成12年度から実施していた道路駐車場改良工事が完成し、12月12日より供用開始しました。

新千歳空港の航空旅客数は、平成4年の新ターミナル供用開始以来順調に増え続け、平成12年には1800万人を超えています。旅客数の増大に伴いバス、レンタカー及び一般乗用車の利用が増えたため、ターミナルビル前の道路が混雑するようになりました。この対策として、新たにバス降車専用レーン(一部は身障者用乗降用)と歩道の整備を進めてきました。

また、この整備に合わせ駐車場とターミナルビル間を結ぶ連絡橋を整備しています。連絡橋にはエスカレーター及びエレベーターが設置されており、空港利用者の移動の円滑化など利便性が向上するものと期待されています。



国産牛肉を安心して お召し上がりください。

牛海綿状脳症(BSE)に感染した牛肉等が市場や店頭に出回ることがないように、次の対策をとっています。

- 諸外国でも例のない食肉処理を行うすべての牛を対象にしたBSEスクリーニング検査を実施し、検査に合格した肉等のみが出荷されます。
- BSE感染の有無に関わらず、脳・せき髄・眼や回腸遠位部を除去・焼却しています。
- 農場で飼育される牛を検査し、BSEが疑われる牛は検査の上、全て焼却します。
- BSEの感染源とされている牛を原料とする肉骨粉について輸入、製造及び出荷を禁止し、今後は牛がエサとして肉骨粉を食べることはなくなりました。

詳しくは、厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp> 農林水産省 <http://www.maff.go.jp> をご覧ください。



「北海道開発グラフ」はエコマーク認定の再生紙を使用しています。